

(2) 考察（アンケート調査から）

講座の受講が「人権が尊重される授業づくり」の実践につながったか等についてアンケートをとり、集計結果や記述から考察しました。なお、アンケートの問い・回答ともに、人権教育上の配慮に基づく表現になっているため、原文のまま記載しています。

[受講者総数37名 回答22名（小学校9名・中学校8名・県立学校5名）]

アンケートの内容・集計（文中の_____線部①～③は[第三次とりまとめ]に示してある人権が尊重される授業づくりの視点、①「自己存在感」②「共感的人間関係」③「自己選択・決定の場」を示しています。）

1 「人権が尊重される学習活動づくり講座」で研修した「人権教育の視点を取り入れた授業づくり」を、実際の授業で実践しましたか。

①実践した

小学校 9 / 9 中学校 5 / 8 県立学校 1 / 5

②実践しなかった

小学校 0 / 9 中学校 3 / 8 県立学校 4 / 5

※小学校→中学校→高校と、学校段階が上がるにしたがって実践した先生が少なくなる傾向が見られます。

2 問1で「実践した」と回答した方にお尋ねします。

(1) 授業を実践した教科は何ですか。

小学校：国語・書写・理科・算数・特別活動・道徳・総合的な学習

中学校：社会・技術家庭

県立学校：地理歴史科（世界史）

※小学校では様々な教科・領域での実践につながりましたが、中学校・高校では実践された教科が限られていました。

(2) 授業の様子（子どもたちの雰囲気など）は普段の授業と比較してどうでしたか。

◎雰囲気に関すること

○小学校

- ・ どの児童にも①発言の場を確保できたので、普段発言できない児童も発言しやすい雰囲気があった。児童同士も②お互いの考えを進んで聞こうとしたり、言えない子の考えもいろいろな方法で聞き出そうとしたりしていた。
- ・ 小グループ学習を取り入れることで、②算数の苦手な子も安心して参加できた。全体の前でグループの一員として、学習問題の立式の根拠を説明できた。
- ・ ②友だちの意見に反応したり、よく耳を傾けたりするようになった。
- ・ ②和やかな雰囲気だった。
- ・ 前時のふりかえりの際、①子どもの書いた感想を読んだ。②自分の感想や友だちの感想を知ることで表情がよく、興味関心をもって授業に臨んでいた。また、前時とのつながりをもって考えることにつながった。

○中学校

- ・ 普段の授業に比べ、グループ学習での②友だちとの関わり方や取り組む姿勢に真剣さが表れたように感じた。

- ・班活動が活発になり、②お互いの作品を上手にほめることができるようになった。
- ・いつもより真剣みが増していた。小グループによるシミュレーション等で話し合って③決定を行い、興味関心がいつもより持続していたと思う。
- ・意見を交換する場面において、②分け隔てなく自由に生徒同士が動いて、自分の意見を共有する場面がたくさん見られた。上位、中位の生徒が下位の生徒と自然に関わり、教えていく姿があった。教え合う姿や意見共有する姿に笑顔が多く、意欲的であった。

◎発表・発言に関すること

○小学校

- ・①普段の授業よりも発表する児童が多かった。
- ・③書写は自分で課題設定（めあて）をすることで、より積極的な活動になっている。振り返りもしやすい。②道徳は自分の考えと友だちの考えを見合い、比べて考えることで、より深い考えになった。①発言する子どもたちも増えた。

◎その他

○小学校

- ・盲学校との交流を前にした授業だった。前提学習としてプラスの出会いをめざした。
- ・導入を短時間にできた。人権・同和教育の観点からの発問が明確になった。
- ・②グループで意見を出したり、みんなの前で意見を出したりすることにつながった。

○中学校

- ・あまり変化はない。

○高校

- ・特に、普段から教科特性上、人権に関わる話は頻繁にできるし、行っている。しかし、問題点について身近な問題例等の紹介や討議等はなかなかできないが、私からの人権に関わる突っ込んだ説明等は普段の授業でも行っているので生徒の様子については特に変化はありません。

※子どもたちがいきいきと真剣に、お互いのことを大切にしながら学習する姿が見られたようです。普段はあまり発言しない子どもも発言することができたり、お互いの発言を笑顔で受け止めたりするなど、より充実した授業になったようです。ただ、ごく一部ではありますが、「人権教育の視点を取り入れた授業づくり」の趣旨が伝わっておらず、提案の仕方等に工夫が必要だと考えています。

(3) 授業を実践してみて、先生ご自身はどのようなことを感じましたか。

◎雰囲気に関すること

○小学校

- ・学習過程の中に計画的に人権についての配慮をしていくと、学習の雰囲気が穏やかになり、しっとりとした授業に感じることができた。
- ・意識的に①全員が活躍できる場を確保することで、児童一人一人の考えを生かした授業を行うことができたように思う。②児童同士の関わりも増え、授業の中でもお互いを思いやる場面を作ることができた。
- ・①子どもたちの意欲的な態度を見るが多くなり、良さをたくさん見つけることがで

きた。

○中学校

- ・内気な生徒も、②班の中で友だちがフォローしてくれている姿が見られるようになり、みんなが明るい気持ちで授業に臨んでいると思った。
- ・一方通行の講義型の授業よりも、②子ども同士をつないでいく手立てをとった授業の方が授業自体も効率的であり、何よりも生徒のモチベーションも全然違う。①「自分の意見が認めてもらえた」「自分の意見がみんなの役に立った」というような思いが学習意欲も高め、自己肯定感を高めていくと感じた。

◎授業の理解に関すること

○小学校

- ・学習の苦手意識を減らしてあげた方が、本人の自信がついて理解も深まるのではないかと感じた。本人の笑顔と②周りの子の称賛で温かい気持ちになった。

◎教師自身の意識・変容に関すること

○小学校

- ・普段の授業に少し人権・同和教育の視点を取り入れただけで、子どもたちの友だちに対する見方が変わり、②ともに考えたり認め合ったりする雰囲気が作れた。毎回毎回準備をして…と気を張って行うというのではなく、教師が頭の中に、この視点をいれて授業することが子どもたちの「目」や「心」を育てていくと感じた。
- ・子どもの視点に立って、いつもの人権教育の視点をもって授業することが必要だと感じた。

○中学校

- ・社会科の人権に関する授業だけでなく、他の授業でも取り入れられる場面があれば実践していきたい。
- ・生徒が急に変わることはないと思うが、自分の意識の中では配慮すべき点を意識しながら授業をするようになった。続けることで生徒も変わってくると思う。

◎授業の質に関すること

○小学校

- ・講座に参加し、講師による指導やたくさんの先生方と意見交換したために人権・同和教育のねらいを明確にすることができた。それが授業の深まりにつながったと思う。人権・同和教育の授業はどうしたらよいかわからないという声をよく聞くので、今回の講座はすぐに役立ち、とてもよいのではないかと思う。
- ・内容が豊富なので、子どもたちが考えやすいような資料の提示を考えた。様々な実態がある中で、どのようにすると分かりやすいか、発問や授業内容を考えるのが難しかった。ただ、子どもたちは自分なりに考えたことをワークシートに書いてくれたので、資料の作成が大変だったがやってよかった。

○中学校

- ・弱い立場にある人々の視点や思いと、集団の力を動きのある授業の中で感じさせることができ、今後の行動に結び付けてくれる契機となる気がする。

◎その他

○小学校

- ・人権の視点を大切にした授業を行えた。(盲学校との)交流会までの道のりは厳しかったが、子どもたちがプラスの出会いをすることができたのでよかった。

○高校

- ・教科の特性上、人権に関しては日常の授業の中で当然、生徒一人一人が知識を得て、かつ考えていけるように配慮した授業実践に努めていかなければならないと考えておりますので普段通りで、授業内容については特に感じることはありません。しかし、課題は授業実践の評価と生徒一人一人の評価に関することに疑問を感じました。

※ほとんどの先生が、普段の授業との違いを感じ取り、「人権教育の視点を取り入れた授業」のよさを実感されたようです。

(4) 授業を実践してみて、成果と課題はどのようなことですか。

①成果

◎雰囲気に関すること

○小学校

- ・普段はグループでの実験で、男子中心に取り組む場面が多くみられたが、女子も積極的にになり、みんなで協力して助け合う場面が見られた。また、理科の苦手な児童も自分なりに発言しようと努力していた。
- ・学級全体の雰囲気がよくなった。
- ・グループの話し合いでも、お互いの意見を聞こうとするようになった。
- ・友だちの意見に反応したり、よく耳を傾けたりするようになった。
- ・授業の中で認め合ったり話し合ったりしたことで、学年全体の雰囲気がよくなった。
誰もが安心して発言できるようにもなり、実践してよかった。
- ・子どもたち同士の認め合いが増えた。
- ・課題に対して意欲的に取り組むようになった。
- ・子どもたちが興味をもって授業に臨んでくれたのがよかった。

◎発表・発言に関すること

○小学校

- ・安心して発言できる子が増えてきた。
- ・同じ考えに出会い、安心して発言するようになった。

◎授業の質に関すること

○小学校

- ・事前に準備している分、ねらいが明確でそれをクリアすることが容易であった。

◎教師自身の意識・変容に関すること

○中学校

- ・自分の人権に対する意識が変わったこと。こちらが意識することで生徒側にも少しずつ伝わっている。

◎その他

○小学校

- ・時代のつながりを考えたり、自分を振り返ったりする感想が出てきた。

○中学校

- ・②普段はあまり発言しない生徒も、周りの生徒と一緒に発表したり、活発に活動する場面が見られた。
- ・全員が顔を上げて活動できるようになった。
- ・生徒同士が授業に関する②自分の考えを自由に発言することができた。それを周囲が認めることで、授業中に笑顔が多く見られ、学習意欲が高まった。

○高校

- ・人権に関する生徒一人一人の知識と意識は、多少なりとも向上していると考えられます。

②課題

◎時間や労力に関すること

○小学校

- ・予定より時間がかかることが多い。
- ・時間配分がうまくいかないとグループ学習は組めない。
- ・内容が豊富なので、自分自身の勉強不足を感じるとともに、授業に臨むにあたって教材研究や資料作成に時間がかかった。
- ・進捗の関係で、より丁寧に扱うことができなかった。

○中学校

- ・授業の進捗が遅くなってしまうので、授業計画をしておく必要がある。

◎授業の進め方に関すること

○小学校

- ・活動に応じて適したものとそうでないものがあるので、いくらかバリエーションをもっておかなければならない。
- ・手立てを準備するのに時間がかかった。

○中学校

- ・普段は生徒の反応によって展開や発問を行っているが、指導案に沿った展開にしたために児童の反応に沿った展開ができなくて児童の実態に合わせた授業から離れてしまった。どちらを大切にするか一長一短がある。
- ・班活動の時間をどの部分で取り入れるかが課題である。
- ・授業の度に指導案を書いているわけではないので、時間があるときに全体の計画を立てる場合にあらかじめ視点を入れておくことが必要。
- ・話し合い活動が苦手な生徒が、ふとした瞬間にぼんやりした表情を見せるときがあったので、「無理して参加しているのかな」という思いが教師側にあった。今後は苦手な生徒が自由に話せる雰囲気を作りたい。そのためにはクラスの実態把握(人間関係)を分析して授業に臨みたい。

◎その他

○小学校

- ・子どもの実態が様々な中、級外として授業をする際に、もっと子どもに寄り添って考えないといけないと思いつつもなかなか難しかった。

○高校

- ・人権問題について、ある程度は知識的には理解していると思われる（テスト等を行えば評価できる）。しかし、そうした知識を生徒一人一人が身近な問題として捉え、更に文科省が求めるように具体的行動を日常生活の中で実践できているかどうか評価するのが難しい。また、それをフィードバックした授業を組み立てていくことに課題があると感じた。

※「学級や学年の雰囲気よくなった」「安心して発言できるようになった」「意欲が高まった」「認め合いが増えた」など、期待通りの成果が上がりました。また、「自分の人権に対する意識が変わった」と記述されるなど、先生方の意識の変容につながったことも大きな成果でした。半面、「事前の準備や授業の進行に時間がかかる」「班活動をどの場面で設定するか」「話し合い活動を苦手とする生徒も自由に話せる雰囲気を作るために、クラスの実態把握（人間関係）を分析したい」などの課題も出されました。

(5) 授業をされる際、講座の演習で作成したような学習指導案を作成されましたか。

① 作成した

小学校 6 / 9 中学校 1 / 5 県立学校 0 / 1

② 作成しなかった

小学校 3 / 9 中学校 4 / 5 県立学校 1 / 1

※小学校→中学校→高校と、学校段階が上がるにしたがって作成された先生が少なくなる傾向が見られます。学習指導案を毎時間作成するのは大変だと思いますが、授業のどの場面に、人権教育のどの視点を取り入れるかという点を事前に明確にしておくことは大切だと思います。

3 問1で「実践しなかった」と回答した方にお尋ねします。

(1) 実践しなかった理由は何ですか。

○中学校

- ・時間が取れず、未だ実践できていない。
- ・授業の進度的に厳しい点があったために、なかなか実践することができなかった。
- ・今年度、新しい仕事（部活の大会運営）が入り、それに膨大な時間を要したため。授業の空き時間もほとんどない中で、同じ教科の先生が病休に入り、ますます多忙を極め、自分自身も体調を崩したため。

○高校

- ・時間的余裕がなかった。
- ・支援教員という立場上、授業時数がほとんどありませんので、定期試験のために授業を進めるので精いっぱいのため、実施できませんでした。
- ・今年度、授業時数がゼロだから。
- ・実践する機会がなかったため。

※時間的な問題が一番大きいようです。

(2) 今後実践するご予定はありますか。「ある」・「ない」それぞれの理由もお書きください。

① ある

中学校 3 / 3 高校 1 / 4

(小学校は回答者全員が「実践した」と回答しているためデータなし)

○中学校

- ・これから実践していきたい。
- ・2年生の社会科の授業で、江戸時代の身分制度の授業をするとき、人権について考えさせる授業を行いたいと考えている。その際、教師自身が生徒の人権を意識した指導案の作成に努め、誰もが安心して授業に取り組むことができる雰囲気を作りたいと思う。とても勉強になった講座であったので、ぜひ授業に活かしたいと思う。
- ・今年度は厳しいが、来年度には実践したいと思う。

○高校

- ・次年度は授業数も元に戻るため、実践していきたいと思います。

② ない

高校 2 / 4 (無回答 1)

(小・中学校は全員が「ある」と回答しているためデータなし)

○高校

- ・元々、授業に余裕がない。準備時間も。
- ・来年度も授業時数がゼロだから。

※今年度実施できなかった方でも、ほとんどの先生方は今後実践したいと考えておられるようです。ただ、勤務形態上実践が難しい先生もおられるようです。